



ホア ビン (平和)

## HOA BINH レポート

**JVPF** 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議(日越友好連)  
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079  
c/o. IFCC.#405, TsujiBLD, 333, Yamabuki-cho, shinjuku-ku, Tokyo, Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079  
http://ifcc1985.com jvccpf@rmail.plala.or.jp

会費/正会員:(個人)5,000円(団体)50,000円 口座名/日本ベトナム平和友好連絡会議  
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱東京UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225  
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキウ)店(当座)0188872



上: 22年を数えた枯れ葉剤爆弾被害者支援ベトナムアンサンブルチャリティーコンサートの様相(福島・石川町公演 2017/10/22)  
下: 東日本大震災時(2011年)、復興祈念植樹した跡を訪れたアンサンブルメンバー(2017/10/20)

昨年は、少数民族学生奨学金支援がベトナム南部ラムドン省で四期目へ、ベトナム北部ハザン省で二期目へ、広島HVPFはクアンチ省で九期目に入ったこと、また2016年に10年目となった村山記念JVPF日本語学校の記念訪日団を迎えたこと、など教育支援プログラムの着実な発展をみました。

枯れ葉剤爆弾被害者支援のためのチャリティーコンサー

トは昨年で22年目を数えました。三版を数えた追跡記録映像『トアとトゥオン』は科学技術映像祭で受賞し映画雑誌でも紹介されました。さいたまJVPFのクアンナムでの被害者支援の『仁愛の家』建設は24軒に及びベトナム内外の注目を得ています。

新年にあたり、あらためてJVPFの活動が「平和と生存」のための日本とベトナムの友好交流活動から、ひいては日本国内、アジア、世界へと繋がっていくことを祈念致します。

2018年 新年とテトの日

#### 本号の内容

- 2017ベトナムアンサンブルコンサート報告/宮城、福島、新潟、静岡、東京
- 各地活動報告——広島、埼玉
- 活動の輪——原発被爆者との交流、ベトナム原発中止、「トアとトゥオン」、村山日本語学校、留学生のみた日本

#### 第11回総会(21回理事会)のご案内

2018年5月26日(土)午後3時00分～17時30分  
理事会は同日、同所で午後1時より  
後日、正式ご案内を致しますので、ご予定をお願いします。  
※2018年のテト(旧暦元旦)は2月16日です

～平和の生き証人の叫びに添えて～事実を忘却しないために

## 22年目のベトナムアンサンブルチャリティーコンサート

### 宮城・塩竈市公演

### 実習生の皆さんとともに



終焉後、実習生たちと

宮城県内では 1997 年から隔年開催で 2015 年まで 11 会場で開催されてきたベトナムアンサンブルコンサート、今年の開催依頼を受け自然の成り行きか強制か、県内での開催地選定から事務局を担うこととなりました。前事務局長から送られたファイル 1 冊を手掛かりに、開催地選定の相談からスタートし、これまでの開催実績から塩竈市を会場にということで、自治労塩釜市職労、地区平和労組、連合塩釜地協や塩釜地区労福協、塩釜市職労退職者会、社民党塩釜支部などで相談会を開催したのが 5 月でした。結果として、塩竈市での公演が確認され相談会の構成団体で実行委員会を構成しコンサートの準備を進めることが出来ました。

実行委員会では、山本進塩竈市議からの情報で市内の水産加工会社で 120 人程のベトナムからの実習生を受け入れていることを知り、支援への感謝を含め（震災・津波被害への支援も含む）公演へ招待し交流を行うこととしました。招待にあたっては、山本市議を中心に塩釜市団地水産加工業協同組合傘下の企業に協力を要請した結果、各企業に理解を頂き、多くの実習生の皆さんに会場いただきました。実習生の皆さんの多くは民族衣装のアオザイ姿で来場し（企業の皆さんは持参していることを知らなかったとのこと）、コンサートに華を添えてくれましたし、来場した市民の皆さんにも実習生の存在を

アピールすることが出来たのではないかと感じました。

コンサートの準備を通じ、県内各地でベトナムからの実習生を受け入れていること、各大学等に留学生が多く来ており市民レベルでの各種交流が行われていることを知りました。

（塩竈市公演実行

委 事務局）

### 福島・石川町公演

### 町の芸術文化活動助成事業として開催

ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート 2017 石川公演が 10 月 22 日、石川小学校クリスタルホールで開催され、14 年前と同じく 180 人の町民がベトナムの民族舞踊や民族楽器の演奏を楽しみました。

町民が外国の文化に触れ、国際的視野を広げることに意義があると、石川町、石川町教育委員会の後援で、石川町芸術文化活動助成事業として開催されました。

開催冒頭、石川地区勤労協、平和フォーラム、憲法を守る会、退教協、あけぼの会で作る実行委員会の櫻井淳司実行委員長あいさつと田口和憲教育長の歓迎のあいさつがありました。



高校生から花束を受ける団長

ベトナムの魂、吟遊詩人チンコンソンの世界を奏でる隻腕のギター演奏家グエン・テ・ビンや民族楽器の演奏、舞踊に、ベトナムとの交流のひと時を過ごした参加者から「とても良いものを見せていただきました」との声が寄せられ、最後に二人の女子中学生から感謝の花束が贈られ閉会しました。

（事務局：中村孝太郎）



### 御 礼

22年目となったチャリティーコンサートは2017年10月17日～29日の期間、11開催地で開催。うち、青森では昼・夜公演、宮古市で東日本大地震被災地復興祈念植樹跡訪問（2011年10月に記念植樹しました）、フクシマ原発事故被害者との交流会、を行い10月30日に離日致しました。来場者は約2,200人、チケット購入協賛者は4,000人ほどとなりました。

また、埼玉・川口ではオペラ歌手の角田和宏さん、東京・世田谷では日本人の隻腕のギタリストの橋本道範さんにゲストとして参加していただきました。その他、各公演地で言葉に尽くせない開催への工夫あるご協力をいただきました。

今回は22年目となりましたが、枯葉剤爆弾被害者の「わたしの体の中では戦争が終わっていない」という叫びを届け続けられたことを有難く思っております。

2017年度のコンサート終了にあたり、ここにあらためて御礼を申し上げます。

記：鎌田

## 新潟・上越市公演

## 収益金 30 万円を寄付



10 月 23 日に前月にオープンしたばかりの高田公園オーレンプラザで開催されました。上越市では 2002 年以来、2 回目の公演でした。

当日は、台風 21 号の影響による悪天候で交通にも支障がでた中、約 200 人の来場者がありま

した。参加者からは、「ベトナムの民族楽器演奏、伝統的な歌や踊りを初めて鑑賞しました。特に民族楽器の中の石で作った石琴と呼ばれるものは、はるばるベトナムから空輸され、ゴツゴツとした石からは想像ができないほどの繊細な音色を奏でてい

ました。新しくできたオーレンプラザとベトナム音楽を堪能できた 2 時間でした」など、多くの「コンサートに行ってよかった」の声をいただきました。

休憩時間にはベトナム音楽の CD やポーチやバック、アクセサリなど物販のコーナーも賑わっていました。枯葉剤被害のパネル掲示では、枯葉剤の被害が後遺障害、遺伝子障害として子や孫へ受け継がれ、何世代にもわたり苦しみが続いている現実が写真に映し出されていました。ベトナム戦争集結から 42 年経ってもなお、ベトナム国民を襲い続けています。

支部では、コンサートの実施に向け実行委員会を立ち上げ、新潟県立看護大学の渡辺弘之准教授を実行委員長に、10 を超える労働組合等が実行委員会に

加わり本番に向けた準備を進めてきました。組合員をはじめ多くの団体・個人から、チャリテ

ィーの趣旨に賛同いただき、協賛やコンサート協力券の購入により、収益金約 30 万円を寄付することができました。

また、コンサート終了後の、メンバーとスタッフを交えた夕食交流会は、たいへん楽しく、心に残るひとときとなりました。

コンサートに関わってくださった皆さんの善意が、戦争で傷ついた人たちの支援につながったことに感謝するとともに、戦争を起こしてはならない、加担してはならない、世界の恒久平和を求めていかなければならないことを再確認しました。

(新潟県職員労働組合中頸城支部書記長 穂苅 徹

## 東京・世田谷区公演

## 音楽評論家湯川れい子さんも賛同呼掛け人に

10 月 26 日の世田谷での公演は 6 年ぶり。前回は、東日本大震災の発生した 2011 年 10 月で、被災者支援を含めた取り組みとなりました。

今年の公演は枯葉剤爆弾による被害者への支援とともに、福島原発被害者支援や核兵器廃絶に向け

た取り組みなど区内の市民活動の取り組みと連帯した対応が取られました。賛同人として、区内在住の音楽評論家の湯川れい子さんに承諾を頂きました。

突然の総選挙ということもあり、来場者数・協力券販売数ともに前回より下回りました

が、世田谷生活者ネットワークや新社会党世田谷総支部、社民党世田谷総支部などの各政党および、世田谷地区労・世田谷区労連をはじめとする区内団体や各労働組合のご協力を頂くことができました。

また、ゲストとして日本のギターリスト・橋本道範氏の演奏もおこなわれました。

ベトナムの楽器は、日本国内では非常に珍しいものばかりです。一弦琴やトルン（竹琴）など音色も幅広く、色鮮やかな照明の下で奏でられた演奏は多くの観客の感動を呼びました。

(同実行委 羽田圭二)

## 静岡・伊豆の国市公演

## プレ企画アオザイ・ファッションショーも大好評



伊豆の国市でのコンサート開催は、3 回目となりました。

今回はコンサートだけではなく、より多くの方に「ベトナム」の国に親しんでいただけますよう、伊豆の国市国際交流協会をはじめ、皆様の協力の下、「プチベトナムフェア」を同時開催しました。

ベトナム雑貨や、米粉で作ったパイセンオや揚げパイ、ベトナムコーヒーなど、ベトナムの食にも親しんでいただきました。また、日本の着物や帯を仕立て直し製作したアオザイの「ファッションショー」は、大変好評で、よりベトナムが身近な国に感じられました。

開演前に上映した「トアとトゥオン」の映像は、今も枯葉剤爆弾の後遺症に苦しむ方々の実態に、私自身も大きな

## 各地の活動報告

### 広島 HVPF

広島ベトナム平和友好協会 (HVPF) は結成 10 周年で活動飛躍へ

ベトナム平和友好訪問団を送り始めて 9 年、第 12 次を迎える今年は 5 名が訪問しました。主な目的は、恒例のクアンチ省少数民族寄宿高等学校での「奨学金授与式」出席のほか、来年迎える「HVPF 設立 10 周年」と「日越国交樹立 45 周年」を祝う記念行事をホーチミン市で開催するための打合せ。昨年秋にグエン・ドクさんを迎え開催した「トーク&コンサート」を機に東広島市にキャンパスを置く広島国際大学の客員教授に就任が決まったドクさんへの辞令交付（代行）。同じく同大学が今春開設した「アジア介護福祉人材研修センター」との提携協議のためのフエ医科薬科大学、ホーチミン国家大学人文社会科学大学日本語学部訪問。ツーザー病院への医療物資のプレゼントでした。

クアンチ省、グエン・ドク・チン知事との会見では、来年の「HVPF 設立 10 周年記念式典」（7 月）に招請、広島県知事を表敬訪問を通してクアンチ省と広島県の交流関係を構築することになりました。

フエ医科薬科大学のグエン・ヴ・クック・フィ副学長との協議では、日本から専門教員を招き介護・福祉に関する講義を行ったことなど医療・介護分野で広島国際大学との連携に深い関心



広島国際大学客員教授証書をドクさんに届けた  
が示され、引き続き情報交換を行うことになりました。

来年 10 月を予定している「日本ベ

トナム国交樹立 45 周年記念フェスティバル in ホーチミン」については、フィン・トロン・ヒエン日本語学部長・国際株式会社 COCORO 役員と意見交換を行い、企画・準備に入ることを確認しました。

今春、ベトナムを訪問された天皇皇后両陛下との会見の後、緊急手術し療養中だったドクさんは、職場復帰に向



フエ医科大学で今後の提携を確認する

け日本人観光客に枯れ葉剤被害について講話をしながら元気に過ごし、客員教授としての新たな活動に意欲を燃やしていました。

今回の訪問は「設立 10 周年を迎え、HVPF の新たなステージを切り開くミッションとして大きな成果を収めました。来年 6 月、一般社団法人への移行も予定しています。（記 2017 年 12 月）

### 埼玉 JVPF

世界のモデルケースになった「仁愛の家」

埼玉 JVPF 副会長 平松伴子

今年の 2017 年 7 月 31 日から 8 月 5 日まで埼玉 JVPF のメンバー 7 名でベトナム訪問をしました。猛暑の中でしたが、みんな元気でベトナムの人々と交流してきました。

ダイオキシン被害者訪問では第 4 世代の被害者がベトナム全体で 2000 人を超えたと聞き、愕然としました。この責任は一体誰が負うべきか、考えさせられました。

新しいことにもいくつか出会いました。その①－「仁愛の家 No. 24」の引渡し式に参加しました。私たちの訪問日に合わせて引き渡し式を行ってくれたのです。

その②－「仁愛の家 No. 25」となる予定の家を訪問し、ご家族に会わせていただきました。今年の支援金で建設されると思われます。

その③－「仁愛の家」が世界的な支

援活動のモデルケースになったとクアンナム友好連合から報告を受けました。日本人の「仁愛の心」が新しい支援方法のイメージとして世界に広がり、見学者が絶えないとのこと。私たちの支援活動が世界的支援の基点になれば大変嬉しく思います。

その④－クアンナム人民委員会を表敬訪問し、タン副主席と話し合いをした際、副主席が重大な発言をされました。

「ダイオキシン被害は非常に深刻です。ベトナム政府はアメリカ政府に対して、ダイオキシンに混合させた他の毒薬名を公表せよと要求しています」。

この問題は世界中の研究者も同じ見解です。日本の支援者も是非知らなければならぬことだと思います。ダイオキシンを製造しアメリカ軍に売った日本の三井陶化化学大牟田工業所にも、同じく混合毒薬名を公表するよう求めたいと思いました。更に、タン副主席は、「遺伝子の研究に取り組むことを教育相や大学医学部とも検討したい」と述べました。

私たちが 3 年前から申し上げていたことですので、大変嬉しく、期待したいと思いました。ダイオキシン被害者がこれ以上増えないためには、是非とも必要な研究だと思うからです。

今年の訪問では、「ホーチミン廟への献花」と「ファン・チュー・チン記念堂の見学」なども行ない、大きな実りある訪問となりました。



Nui Thanh 県の「仁愛の家」NO22 で。ファム・ゴック・ドウクの末娘は重度の障害

また、グエン・ティ・ビン女史から頂いた貴重な「豆粒の絵画」は川越市役所の来賓室に飾ってあります。

（記：2017 年 11 月 28 日）



## 拓けよう 活動の輪

### 原発事故被曝者と友情交流

JVPF は一方通行の支援でなく相互交流を目指しています。

枯れ葉剤爆弾被害者支援のチャリティーコンサート出演のアンサンブル団員たちはフクシマ原発事故被害者との友情交流を行い、日本側から 40 名余りの参加をいただきました。

◆ I F C C の皆さんが、ベトナム現地の枯葉剤被害を戸別訪問し調査活動している姿に学んだ。今、福島では小児甲状腺がん検査をしているが多発の事実にも国は『放射能関係ない』としている。大人の甲状腺がん、その他いろんな病気や風邪など含め健康異常がでている。統計的作業は難しいが交流の中から身近な調査研究成果に学んでいきたい。」(岸本理事長謝辞)

◆ベトナム枯葉剤被害問題を 22 年間粘り強く続けてきた I F C C 国際友

好文化センター(※JVPF は 2000 年から共催)の呼びかけで実現したベトナムとの交流会が 21 日、福島テルサで開催された。限られた関係者の参加では



あったが雨の中遠くいわき市や三春町、また、市内外の心身ともに障がいを持つ方、高齢者、そして 20 代、30 代と幅広く 40 名が参加。あまり直接触れ合うことのないベトナムとの交流は「ベトナム戦争勝利を担った人々への尊敬」(二階堂忠雄庄野区長)を含め、「ベトナムの方と話ができて本当によかった」と参加者の声が聞かれた。

◆ファーム庄野は構成詩『わたし、どう生きたらいいの』(※原発事故被害者の声を取りあげたもの)を披露。市の朗読会や高校生演劇部の方、磐梯ダ

ルクの会などの支援で熱演。「中学生や高校生は放射能を分かっているのか。また、分かたらどうするのか」「何人病気になったか。政府は隠していないのか」(歌舞団員)と質問されていた。

◆ボンセン歌舞団の演奏はギターと

歌の「ぼうやお眠り」(チン コン ソン作曲)、一弦琴、ベトナム笛、トルン(竹琴)等民族音楽を演奏し参加者に感激を与えた。

◆県原爆被害者協議会の木幡吉輝会長

は長崎原爆での救援活動から「これだけは若い世代に伝えたい」と資料を作成し報告。

◆写真家の飛田晋秀氏は「事故 1 年後、原発周辺に取材。250  $\mu$  Sv/h もあり、放射能の恐ろしさを実感。小学二年の子どもに「私お嫁にいきますか」と尋ねられ答えられず。車の中で一人号泣。私はカメラマン。避難地域に 108 回、写真撮影。若い世代へ健康守るため伝えたい」と自身の被曝(甲状腺がん数ミリの結節、右目不明の腫れ等)を顧みず命を懸けた取材の話に、「原発周辺の人々を帰すのか。どうしようとしているのですか」と質問を受けた。まだ、1%も帰らない浪江や富岡町の実態を飛田氏は話した。

NPO/ファーム庄野の会報 81 号 (H29/10/25) より要約転載。※印は本会報編集者注

### 「勇気ある撤退」ベトナム、原発計画中止

2016 年 11 月 22 日、ベトナム政府は南部ニントンウアン省に建設予定であった原発計画の中止を決めた。原発計画は 2009 年、前首相のグン・タン・ズン氏が主導し、発電能力 400 万キロワットをロシアの第 1 原発(2 基)が 28 年、日本の第 2 原発(2 基)が 29 年の稼働を目指していた。

原発計画中止の理由はいくつかある。一つは、経済・コストの問題である。当初の投資金額が 20 京ドンから 40 京ドンと 2 倍に膨れ上がった。原発単価も約 4.9 セント/KWh から 8/KWh に上昇した。また、経済成長率が 9~10%、電力需要も 17~20% 伸びを条件に電力需要を賄うために 22% の伸びを見込んだ。しかし、実際の経済成長率はそれより低く 6~7% で推移し、電力需要も今後 5 年間で 11%、10~20 年後に 7~8% と見積もられた。

二つは、再生可能エネルギーや LNG が競争力を持ったこと。節電技術が進み、エネルギー消費が抑えられてきた。2021 年までの間、国内需要を十分賄えることを見積もった。更に再生エネルギーが発展し、電力原価は 5 セント/KWh 以下まで下がり、原油に代わる LPG ガスが合理的な原価を示していることである。

三つは、ベトナムの対外債務問題である。対外債務が許容範囲ギリギリに迫っており、大きな計画に投資を続けると危険はさらに増すと判断した。

四つは、放射性廃棄物の処理問題である。2011 年福島第 1 原発事故によって核廃棄物処理の必要性が高まったことを認識した。

日本政府は、成長戦略にインフラ(原発)輸出を掲げ、そのために電力需要は満たしているのに住民の安全より老朽化した原発の再稼働を進めている。福島第 1 原発事故の反省を微塵も感じることができない「安全・人命より金儲け」これが日本の姿である。

(国会議員で科学技術委員会副委員長のレ・ホン・ティン氏のインタビュー記事を中心にまとめた)

記：田中秀樹

### 枯れ葉剤被害者追跡記録映像「トアとトゥォオン」の上映活動を

枯れ葉剤爆弾被害者の「わたしの体の中では戦争が終わっていない」という叫びを受けとめた JVPF の活動は少しずつ認められてきています。小さくても継続していきたいと思います。

昨年は東広島で上映会と鈴木伊織さんの講演が行われました。あらためて製作・監督の鈴木伊織さんに思いを語って頂きました。

◆2017 年 6 月 16 日、広島ベトナム平和友好協会(HVPF)のお招きで、東広島市を訪れました。「トアとトゥォオン〜ベトナム戦争の子ども達」の上映会が行



われ、そこに私も講演者として参加させて頂いたのです。私自身、人前で喋る事に慣れておらず、どこまで伝わったか不安でしたが、一通り作品の背景や枯れ葉剤問題の現状等についてお話しさせて頂きました。

◆枯れ葉剤=ダイオキシンによる被害が決して過去のものではなく、世代を超えて現在も続いている事に参加者の皆さんもショックを受けているようでした。参加者の中に数名、こちらに働きに来ている若いベトナム人女性の姿もありましたが、彼女達によれば、ベトナム国内でも現在、枯れ葉剤被害者の問題が話題に上る事はあまり無いとの事でした。学校で教わる事も無く、被害者の存在は知っていたが、皆、施設に入っていると思っていたとの事。トアやトゥオンのように、一般家庭の中にもそういった人が居るという事実を、この作品で初めて知ったとの事でした。

◆日本でもそうですが、特に若い世代の間で“戦争”というものが急速に風化している…そんな印象を受けました。しかしだからこそ、今後もこういった作品を作り続け、平和の有り難さ、尊さを継承して行かなければならないのだと、思いを新たにしました。

(記：2017年12月30日)

## 開設10周年を記念した村山 記念JVPP日本語学校日本研 修団が来日

2016年9月から10年目となった村山日本語学校の職員、教員、学生の訪日団は2017年7月、東京で村山富市JVPP会長と会見をもちました。

2007年の開設から11年目に入っている村山日本語学校の近況は①学生数 565人②うち社会人122人、学生(中高生)443人③先生とスタッフの数12人(事務所2人、10人の先生、1

人の日本人)④今年の日本語学校留学生の数24人となって飛躍的な進展を見せています。大きな要因は行政と提携した公立の中学校、高等学校での出前の日本語講座開設があります。

## 日越交流は足元の在日留学生、技能実習生とのつながりから

入管統計(2017年6月)では留学生約70,000人、技能実習生104,000人となっています。喜ばしい半面、ほとんどの留学生、実習生が悪条件の中で勉学に励んでいます。JVPPもそこに目を向けた友好活動が問われてきています。

JVPPの斡旋で日本留学(東京在)したTA THI PHUONG ANHから「便り」をいただきました。

### 日本のことについての感想

◆私はTA THI PHUONG ANHです。子供のとき、ドラえもんなど日本のアニメをよく見ていました。そのときから日本のことがだんだん好きになっていきます。今までも日本のことも大好きです。そのため、日本に行けるように、日本語を勉強しました。ベトナムの学校で日本語を勉強するとき、いつか日本に来ると不安の気持ちがありました。今は東京の学校で日本語の勉強を、生活をして、その夢が実現できました。

◆日本に留学ができて、私にとっては、非常にうれしくて、良いことだと思います。日本に行く前に、インターネットでいろいろ調べました。しかし、日本に来たとき、いろいろ驚きました。例えば、ベトナムでは車は右側運転ですが日本では逆です。そして、日本人

は行列のマナーをよく守っています。また、日本では、女性でも運転できる人が多いです。さらに、年を取っても、運転で

きるお年寄りが多いです。日本人は非常に活発です。日本人は特に、都市の人たちはいつも忙しそうです。日本人は親切で、やさしいです。分からないことがあれば、日本人に聞いて、すぐ教えてもらいます。

◆私の国には、新幹線や地下鉄がありません。私はよくバイクに乗っています。朝と晩はひどいラッシュで、いつも道が込んでいます。そんなときには、歩いている人のほうがバイクより速いです。本当に時間がむだです。私は日本のように、私の国にも地下鉄や新幹線を早く作ってほしいと思います。日本人はよく電車に乗って職場へ行きます。そして、日本ではあまり渋滞が起きません。日本の乗り物は非常に便利だと思います。また、日本のゴミの問題についてもとても驚きました。それはゴミの分け方です。覚えにくいですが、だんだん慣れるようになっていきます。

◆日本の食べ物については、味も作り方もベトナムと違います。最初はお寿司とさしみがあまり食べられませんでしたが、今は食べられるようになりました。とくに、回転寿司が好きです。ときどき、友達と一緒に食べに行きます。そして、日本のてんぷらやコロッケや味噌汁などが大好きです。今は、日本の料理がもう全部食べられるようになりました。

◆日本に行けて、良いチャンスだと思います。今も日本語を一生懸命に勉強しています。将来、日本で就職したいと思っています。また、その夢を叶えるために、もっと頑張りたいと思っています。



右側がANHさん



村山日本語学校訪日団と村山富市JVPP会長(2017/7/4)

(付) 本号の送付にあたっては旅行社アイエフシーから送料の一部便宜供与を受け、アイエフシーから依頼のツアー・チラシを同封しています。